

妙安寺だより

テレフォン法話 092-751-608

4

仏事の基礎知識 ⑥ 追善法要

追善法要(供養)とは、故人の冥福を祈り、故人が生前積みなかった、あるいは積み足りなかった善根功德を、遺族が代わりに積んであげる法要の事です。

ちなみに、法要とは儀式の事であり、供養とはその中身の事です。

供養といっても、仏教では「二種供養」「三種供養」「十種供養」に分け、さまざまな事例をあげていますが、つきつめてみると、これらは、形のある「財供養」と、目に見えない「法供養」の二種におちつきます。

「財供養」とは、香・華・飲食・衣服・臥具・湯薬・燈明などの財物を供養することであります。

「法供養」とは、法華経の法師品に「法華経の一文一句でもよいから、常に念頭におき、その真の意味を理解し、書写し、声を出したり、目で読んだりすることが一番の供養である」と説き示されており、この教えにしたがって、仏の教えを守り実践することであります。

今日一般に行なわれている追善法要(供養)では、財供養は、参列者の飲食だけで止まり、法供養は住職のお経だけのように思えます。

本当の功德のある追善供養は、参列者全員がお経をあげ、お題目を唱え、また、財供養として、参列者に飲食を供養することも大切ですが、忘れてならないのは、「仏法を維持するために財を供養する」ことであります。

ここまで出来て追善法要は成立するのであり、そのためには、平素からお経に親しみ、仏事のこころを知っておくことが大切なのです。

檀信徒勉強会の案内

7月26日(木) 午後1時よりお経練習 提婆達多品の訓読

2時より 「立正安国論」の講義

持参品 お経本(緑色の経本)、数珠、テキスト(立正安国論=500円にて頒布)、筆記用具。

*先般、お知らせしましたように、当山の開山上人のご尊像が、今秋10月12日から11月23日まで、熊本県立美術館で開催されます「熊本城築城400年記念展」に展示されることがほぼ決定いたしました。